2026年２月16日

各　　位

会 社 名　株　式　会　社　ア　イ　ズ
代表者名　代表取締役社長　福島　範幸
（コード番号：5242　東証グロース）
問合せ先　管理部門　管理部門長　平　福　基
（TEL　03-6419-8505）

2025年12月期通期決算説明会　質疑応答（要旨）

当社は、2026年２月13日に2025年12月期通期決算説明会をオンライン配信により実施いたしました。本資料は、同説明会での質疑応答について主な内容をまとめ、公表するものです。なお、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q.　今後、株価をどのように上げていきますか。

A.　株価を上げていくためには、業績を上げる事と、IRの双方が重要だと考えております。
業績につきましては、昨年、M&Aをしたファクログが順調に成長しており、M&Aを行う前の８月から４ヶ月で売上が約２倍に成長しております。昨年は12月のみ業績に寄与しておりますが、今期以降は通期で業績に寄与します。当社はプラットフォームを運営してきたノウハウがあるため、引き続きファクログを成長させられると考えており、３本目の柱として当社の業績を上げていけると考えております。これまでトラミーとメディアレーダーの２本柱だったため、トラミーがステマ規制の影響を受け、当社の業績が低迷してしまったと認識しております。そのため、今後もM&Aや新規事業を積極的に進め、リスクを分散させつつ、大きく成長させていきたいと考えております。

Q.　目標に対する進捗状況はいかがですか。

A.　今期はファクログが成長する事により、目標を達成していきたいと思います。
また、M&Aや新規事業も積極的に進めることで、非連続の成長を目指したいと思います。

Q.　上場維持は可能でしょうか。

A.　東証グロース市場を維持するためには、時価総額100億円が必要となりました。
そのため、時価総額100億円に到達するよう、しっかり株価を上げていきたいと考えております。万が一、100億円に到達しない場合は、東証スタンダード市場への市場区分の変更等を検討し、上場維持を目指したいと思います。

Q.　ステマ（ステルスマーケティング）規制の影響が以前よりあると思いますが、その後の状況はいかがでしょうか。

A.　当社はステマをしておりませんが、ステマ規制の影響により、トラミーへの広告の出稿控えが続いている状況となっております。ステマ規制の影響は一時的なものであり、将来は回復すると認識しておりますが、対策も講じております。

具体的には、投稿前の内容を広告主様が審査出来る事前審査機能をリリースしており、広告主様からも使いやすいと評価をいただいております。なお、昨年第４四半期の期間は出稿再開が見られ、ステマ規制の影響も一定程度緩和されたと認識しております。

Q.　AIは活用していますか。

A.　はい、当社はAIを積極的に活用しております。例えば、トラミーについて、AIで薬機法などの法令チェックを行う機能をリリースしました。こちらにつきましては特許も申請済みです。この機能により、トラミーの会員が自分で薬機法チェックを出来るようになりました。

他にも活用しており、例えばAIのチャットボットが質問に答える事で、トラミーの会員からの問い合わせを減らすことができました。

メディアレーダーについては、AIによって広告のプランニングや媒体選定をサポートする事が出来る機能をリリースしました。

今後も積極的にAIを活用し、業績を向上させてまいります。

Q.　ファクログについて教えてください。

A.　ファクログは金融業界のマッチングプラットフォームで、特にファクタリングに注力しております。具体的には、ファクタリングを利用したい法人や個人事業主の方が、ファクタリング会社のクチコミや、手数料・入金スピードなどを比較検討出来るようになっています。

当社は創業以来、約19年間プラットフォーム事業を展開しており、豊富なノウハウを持っています。そのため、昨年９月にM&Aをさせていただいてから順調に成長しており、M&A前の８月から4ヶ月で売上が約２倍に成長しております。

Q.　今後もM&Aを検討しますか。

A.　はい、今後もM&Aを積極的に検討していきたいと考えております。

主力サービスのメディアレーダーもM&Aを行い、当社のノウハウで成長させてきました。また、昨年９月にはファクログを運営するrimad株式会社のM&Aを行い、合計で５件のM&Aを行っております。今後も積極的にM&Aをする事で、成長させていきたいと考えております。

以　上